



## 入試「失敗学」…先輩たちの「やらかし」集①



詳細な聞き取りはしていないので「推定」を含むことはお許しいただきたい。今日は近年に多い「鉄道」関連。

## 【失敗事例1】「あっ、電車が違う！」

- ①「電車の行先を間違えて、逆方向に行ってしまった」
- ②「『普通電車』と『快速電車』を乗り間違えて、目的駅で降りられなかった」
- ③「路線を間違えて、元の駅まで戻って乗り直さなければならなかった」

[直接原因]:「普通電車」と「快速電車」などの乗り間違え

[根幹原因]:「電車の種類」「列車の時刻」「行き先」などの確認不足

①の事例はJR六地蔵駅とJR二条駅で起こった。JR六地蔵駅もJR二条駅も「上り」「下り」が同じホーム。これで乗り間違えると大変なことになる。

JR六地蔵駅でやらかしたのは「大谷」や「伏見工業（今の工学院）」の受験生。今年は「泰和」の受験生もやってしまう可能性がある。「上り」と「下り」を乗り間違えたのだ。これはJR六地蔵駅を利用する「橘」「桃山」「附属」「芸術」の受験生もしてしまう可能性がある。これを五ツ木模擬試験の「大谷」会場に向かう時にしてしまった生徒もいたと聞いた。



JR二条駅でしてしまったのは「洛陽総合」の受験者。「下り（亀岡・園部行き）」に次の円町まで乗るはずが、あわてて「上り」の京都行きに乗ってしまった。当然、JR二条駅を利用する「聖カタリナ」「花園」「京都学園」「山城」「嵯峨野」「北嵯峨」等の受験生も同じ失敗をする可能性はある。

さらに、こうした駅では「普通」と「快速」との乗り間違えがある。JR六地蔵駅からの「みやこ路快速」は「桃山」「JR藤森」「稻荷」には止まらず、「東福寺」まで行く。大谷や京都駅までいく「龍大平安」の受験生は大丈夫だが、「桃山」「工学院」「附属」は不可である。同じく下りでは「JR黄檗」で降りる「芸術」も同様。②「『普通電車』と『快速電車』を乗り間違えて、目的駅で降りられない」はこうした学校でのこと。

これはJR山科駅でも起こる。「新快速」と「快速（高槻まで各停）」の乗り間違えにより、「西山」にはたどり着けない。そしてJR桂川駅で降りる「明德」「成章」「桂」でも同じ。更にJR西大路駅まで行く「塔南」でも、さらに阪急を使う「光華」「西山」も同じ。

殊に、阪急の「烏丸駅」はミスをしやすい。狭い空間である地下に降りるという心理的作用も影響している。「広いところ」から「狭いところ」に入ると圧迫感を受ける。さらに、「人混み」という心理的圧迫。昨年「特急」に乗ってしまった生徒はそれである。ただ、特急は「桂」で止まるから、西山に行く人は「桂」で乗りかえればよい。ただ、光華に行く人は「西京極」で下車だから、「桂」から折り返す必要がある。

③「路線を間違えて、元の駅に戻って乗り直した」をしたのは「綾羽」の志願者。JR山科駅では「東行き」のホーム（北側のホーム）には「琵琶湖線（東海道線）」と「湖西線」の2路線が入ってくる。それこそ「どこ行きなのか」を間違えると違う方向に行く。「大津」に行く路線と「西大津」に行く路線。これを乗り間違えた生徒がいた。

他には「綾羽」の受験生では降りる駅を間違えた生徒がいる。「草津」で降りるべきとこ

ろを、一つ手前の「南草津」で降りてしまった事例。これはJR京都駅から山陰線（嵯峨野線）で産大附属に向かう志願者にも起こりうる可能性がある。以前は京都駅の次は「**産大附属**」の志願者の目的駅であった丹波口駅であったが、現在はその手前に梅小路京都西という普通列車が停車する駅ができています。産大附属の校長先生は「丹波口」でなく、「梅小路京都西」で降りると、人の流れで「龍谷大平安」に行ってしまう」とよく言っておられる。

【失敗事例2】「えっ、切符がなかなか買えない」

【直接原因】：「切符購入の利用者の増加」

【根幹原因】：切符販売機台数は入試日という「特異日」を前提にしていない

**入試日は「特異日」**である。地下鉄・JR・私鉄（京阪・阪急等）の利用者数は普段とは異なる。それは学生の人数比較だけでもよい。通常それぞれの高校に向かう生徒数を100とすると、入試日にその高校へ向かう受験生数はどれほどの人数になるのか。大谷を例に採ろう。大谷の去年の1年生の入学人数は455人。それに対して昨年志願した生徒数は3447人。実に7.6倍ほどの志願者が入試日には移動している。もちろん、3倍程度の志願者であれば、3学年分とすれば通常の生徒の移動。大谷は前期・後期の2回入試だから、2月10日だけの志願者は少しは下回るかもしれない。京都学園は志願者1133人に対して入学人数360人だから約3.1倍。3学年分と同じと考えてもよからう。（このデータはそれぞれ去年のもの）



image ID : 5430418

**こんな特異日の「発券機」はそんな混み具合を想定していない。**通常は「定期券」で通過する人数が「切符」を買うのだから、発券機が通常以上に混み合うのは当然。事件は5年前のJR六地蔵駅で起きた。工学院に向かう生徒が帰校後、「切符が長蛇の列で、なかなか買えなかった」と嘆いていた。一人一人が買うのではなく、友達と合わせて3人分を一度に買えば、時間短縮にもなったろうが一人一人買うグループがあったという。

**対策はIcocaやPiTaPaなどの交通系電子カードを使うこと**である。あるいはチケットショップで回数券などを事前に購入することである。甲子園などのイベント会場の駅で、まさか当日にイベント後に切符を買わないであろう。

【失敗事例3】「えっ、列車に乗れません」

【直接原因】：「1番乗者の多い車両に乗ろうとした」

【根幹原因】：どの車両が混むのかを知らなかった

出来事は二十歳の世代の「**聖カトリナ**」受験生のJR二条駅で起こった。昨年国家試験も合格し、看護師として勤務を始めた世代。JR二条駅が一杯で電車に乗れなかったと電話してきた。

電車はエレベータ・エスカレータの降りたところや階段周辺の車両が混む。それは車両の中央辺りである。園部行きは京都駅での通路が後方であることもあり、先頭車両付近が比較的すいている。誰でも移動を少なくは心情。エスカレータ・階段周辺が混むのはこの心理。だから、地下鉄はエスカレータ・階段の位置を駅ごとに変えている。対策としては、前か後ろの車両に乗ることを意識して混雑を回避すること。



4年前の前期選抜の時、京阪電車が清水五条で人身事故を起こし、電車が一時不通になった。八幡高校の二人の受験生が中書島で立ち往生したが、再開した折り、1人は先頭車両辺りに乗り時間が間に合い、1人は中央車両付近で乗ろうとして一台列車が遅れた。

遅れても公共交通機関を利用すれば、「**延着証明**」で不利益なく受検は可能。だよ。だれだ？ないものは忘れないと言っているのは！